

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)	内部評価	外部評価	外部評価	次年度の対応
(2)カリキュラムの充実	○学生のキャリアパスが多様化	○時代のニーズにマッチした教育内容の充実	○専門科目の充実 ○ICTを活用したスマート農業の実践 ○進路希望別カリキュラムの実施 ○販売実習の実施	○6次産業化実習(60h) ○災害食試作品試食(1/29、31) ○大型特殊免許講習2回(16h) ○ニワトリ解体指導(30h) ○自給飼料生産指導(12h) ○ネット活用講義「IT活用と農業」(15h) ○「スマート農業」(15h) ○進路別選択120h(1年生60h(100%)、2年生60h(100%))実施 ※()は前年比 ○農大ショップ(9/7、9/28、10/5、2/22) 日曜市(9/3、9/10) みどりの週間(4/15) 農大祭2023(11/3) いの町健康まつり(10/29) 農業教育フェア(12/16) 農業技術センター公開DAY(1/20)	A	○実習や講義など、各項目の授業を計画に沿ってしっかりできており、十分に評価できる。 ○販売実習は予定日を含めて全部で10日間の実施日数であるが、出荷調整などその前日や2～3日前からの準備を考えると、その倍以上の日数がかかっている。そのため、もう少し日数を減らして、その分を他の研修教育に充てた方がよいと思われるので、その方向で検討して欲しい。	A	○進路希望別カリキュラムの充実 ○販売実習の実施 実習効果を鑑みて、実施日数等の検討 ○G・GAPの認証継続 ○聴講科目の充実(追加)
	○学びの機会を提供	○G・GAP認証の継続取得 ○全品目でGAPの考え方を実践 ○聴講制度の整備	○基礎的知識・技術および先進的技術の習得機会確保	○G・GAP再認証に向けた取り組み ・管理記録のデジタル化、効率化(スプレッドシートの活用) ・「GAP」講義実施 ・リスクの洗い出し ・出荷調製室等の清掃の定着(週3回) ・規格変更(R6.1月)への研修(10/5、11/10) ・内部検査(12/7) ・是正措置の進捗確認(1/16) ・審査(2/2) ・認証(2/18) ○聴講科目の追加(生物工学) 聴講生1名受講(スマート農業)				

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
(3) 基礎学力の向上	○農業に係る基礎学力に学生間差がある	○基礎学力の向上(学校全体のレベル向上)	○1、2年の4月当初に学力テスト実施 ○基礎学力の向上国語(1年26名) ○入試合格者への課題提出(数学、国語、基礎化学)	○農業計算力向上 計算演習8h実施 ○農学連での発表に向けた原稿の作成 11月(1年生 25名)	A	○肥料設計や農薬の希釈倍率の計算の仕方など、計算力の向上につながった(学生委員)。	A	○基礎学力の向上
(4) 社会人力の養成	○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生への対応	○社会人として行動・実践できる人材育成 ○現状把握と対応策の検討 ○学生の人権意識醸成	○入校時の生活指導 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施 ○日常的な授業・生活指導 ○寮の定期的な部屋替え ○人権・メンタル面のカウンセリング実施<臨床心理士>(1年生26名、2年生希望者)	○社会人としてのルール、マナーを守れる学生の育成 ・1年生は寮生活の指導を強化。ルール遵守を徹底できない学生もいるが、インターンシップ研修の事前連絡・挨拶は全員円滑に連絡が取れた。(24名延べ23社・2農家) ・先進農家等留学研修(10/16～11/30)2年生<評価> ・熱心に学ぶとする姿勢を持って、最後までよく頑張った。 ・挨拶、礼節、勤勉、忍耐力を備えており、全てにおいてすばらしかった。 ・2年生の先進農家等留学研修における苦情2件。 ○メンタルカウンセリング実施(7/18～8/1 1年生26名、2年生希望者なし) ○会計年度任用職員1名配置 継続要望	B	○先進農家等留学研修 ・学生の中には、無気力であったりすぐに行動に移せない者もいて、もう少し頑張って欲しかったなどの受入農家の評価も一部あるが、大半の学生は学校で学べない実践的な研修を通して、貴重な経験と良い勉強になっている。 ・受入側から苦情が出ないようにして欲しい。	B	○コミュニケーション能力の向上 ○研修に入る前に、各学生に対して担当教官から、研修の目的や調査内容等についての意識づけをしっかりと行い、指導を強化する。 ○多様な学生へのカウンセリング対応

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流	○国際的な感覚を備えた人材の育成	○オランダ・レンティス校学生の受け入れ(約10日間) ○オランダ訪問団への参加(短期約10日間)	○学生7名、引率教官2名(4/21～5/1) ・レンティス校の学生によるオランダ大規模経営の考え方についてプレゼンテーション(4/27) ・オランダ学生とマーケティング調査(4/28) ○派遣研修 学生2年5名(7/29～8/5)、校長引率 ・オランダ環境制御技術等について、学生による報告会(10/11)	A	○レンティス校の学生をホームステイで受け入れ、オランダの派遣研修にも参加したが、手厚く受入対応してもらい、会話や交流もしっかりでき、貴重な体験をすることができた(学生委員)。	A	○レンティス校との交流継続
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査 全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題の選定 ○四国農学連意見発表会に参加(12月、2名) ○中国四国農学連プロジェクト発表会に参加(1月、2名) ○実習後の実習日誌の指導(年間) ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習(年間)	○学生の自主性を高める指導の実現(1年生) 課題設定・発表・各専攻で共有(7月) ○プロジェクト審査(2年生 32名全員合格) ○四国農学連意見発表会への参加(発表者1年生2名) 入賞者なし ○中四国農学連プロジェクト発表会への参加(発表者2年生2名・補助者1名) 入賞者なし ○実習日誌による指導回数(野菜、花き、果樹 1回/月、畜産 2回/月) ○高軒高ハウスの利活用 ・高軒高ハウスで2課題のプロジェクト学習の実施 ・環境制御の理論及び操作方法の習得指導(園芸学科1・2年生)	B	○実習日誌による指導目標は1回/週だが、実績は1・2回/月となっている。学生が実習後、すぐに書けていない時もあると思うが、その都度書いていけば記憶にも残り、書き留めることで次につながる。疑問点なども後で参考書で調べて、書き残していけば、まとめるときに役に立つ。指導の仕方について、再考して欲しい。	B	○実習日誌による指導強化 ・具体的目標の変更 1年生 1回/週 2年生 1回/月 ・1年次に実習日誌記載を習慣づけ、不十分な学生に対しては個別対応で徹底する。

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
(3) 法人の求める能力の育成	○コミュニケーション力の向上 ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○雇用就農に対応した講義の実施 ○法人とのマッチング・法人との意見交換会 ○法人へのインターンシップ時期の見直し ○先進農家等留学研修の実施	○法人就農割合・人数 6%、2名(20%) ○労務管理講義（社労士）3h 実施 ○法人との意見交換会開催 2年生 33名(7/3) ○インターンシップ実施 (6/19～22、6/26～29) 法人・関連企業 12社へ 26名派遣 (2/5～2/16（内 2～4日間）) 法人・関連企業 21社へ 22名派遣 ○先進農家等留学研修実施 2年生 32名(10/16~11/30)	B	○農家出身の入校者数が減ってきている中で、法人への雇用就農者も減っている。若者に対し、農業をビジネスとして魅力ある職業であることを、農外の人に広く知ってもらうことが必要である。法人との更なる連携を期待する。	B	○法人とのインターンシップを含めた連携強化
(4) 各種資格・免許取得	○必要な資格免許の取得	○専攻課程に応じた免許取得者の確保 ○資格取得のための支援	○資格取得の必要性の周知、講義・補習実施 【資格・免許等】 ・危険物乙種4類取扱者 ・毒劇物取扱者 ・フォークリフト ・小型車両系建機(3t未満) ・日本農業技術検定 ・大型特殊免許（農耕車限定）（選択） ・フラワー装飾（選択） ・人工授精師（選択）	○合格者数 【合格者数】 ・乙種4類1名（4%） ・毒劇物取扱者0名 ・フォークリフト24名（96%） ・小型車両系建機(3t未満) 15名/15名（100%） ・日本農業技術検定3・2級延べ15名(58%) 3級14名、2級1名 ・大型特殊免許(農耕車限定)12名（120%） ・フラワー装飾技能3・2級5名（100%） 3級4名、2級1名 ・人工授精師 受講者なし	B	○高校でも危険物乙種4類や毒劇物取扱者試験にチャレンジしても合格するのが難しい状況だが、職種によっては必要な資格があるので、引き続き取得に向け工夫して取り組んでもらいたい。	B	○必要な資格取得支援 合格者を増やすための特化した授業の強化

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
3 進路支援活動の強化 (1) 就職活動の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見	○進路指導の徹底	○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職コース）の支援 ○三者面談の早期実施 ・2年生：5月実施 ・1年生：9月実施 ○就職試験対策 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○求人情報の把握と紹介 玄関、寮1階への掲示（毎月） ○個別にインターンシップ紹介（再掲） ○会社説明会の実施(3月) ○高知大学への四大編入に向けた進路指導の充実	○進路内定率 27／32名(84%) 未定5名 ○三者面談の早期実施 ・2年生：5月8日～26日 ・1年生：9月4日～10月5日 ○就職試験対策 ・3月に実施 ○求人情報の把握と紹介 玄関、寮1階への掲示(毎回)、随時副校長から担当教官へ情報提供（周知） ○個別にインターンシップ紹介（再掲） ○会社説明会（3月予定） ○編入合格者1名（33%）	B	○現在の取組の継続を希望する。	B	○進路指導の強化 2学年になってからは、希望する進路への就農・就職活動ができるように支援する。
(2) 就農支援	○将来の就農ビジョンが明確でない	○就農率の向上	○コース別による就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化（経営計画の策定、農業機械操作、ハウス張替、土づくり） ○J A高知市青壮年部との意見交換会 ○地域担い手育成総合支援協議会・農業振興センターとの連携（説明会の実施）	○就農率 合計4名（うち雇用2名）13%(40%) ○J A高知市青壮年部との意見交換会 実績なし ○南国市農業委員会との意見交換会（10/10） ○地域担い手（協）・農業振興センターとの連携による説明会（10/10） ・高知市 ・土佐市 ・四万十市 ・四万十市西土佐総合支所 ・宿毛市	B	○現在の取組の継続を希望する。	B	○就農後の経営安定に向けた指導内容の充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
4 教職員のスキルアップ 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要	○各種研修への参加	○教官研修の受講 ○産地の栽培技術等の動向調査	○西日本担当者会 野菜：熊本県合志市（8/2～3） 1名 花き：宮崎県高鍋町（12/14～15） 1名 果樹：香川県琴平町（11/1～2） 1名 畜産：岡山県笠岡市（10/25～26） 1名 ○中国四国教務担当者会 山口県防府市（2/16） オンライン開催 ○野菜産地視察 4回 花き ” 6回 果樹 ” 1回 畜産 ” 1回		○業務多忙の中で、担当者会や視察研修など計画に沿って実施できており、評価できる。必要に応じて、プロジェクトの課題解決に向け、学生を連れて産地調査を行っていることも評価できた。引き続き、研修内容の充実を期待する。		○計画的な教官研修の実施
	○農業高校との連携強化（再掲）	○現状把握と対応策の検討	○人権・メンタル面のカウンセリング実施＜臨床心理士＞（1年26名＋2年希望者）	○メンタルカウンセリング実施（7/18～8/1 1学年26名全員、2学年希望者なし） ○会計年度任用職員1名配置 継続要望				○多様な学生へのカウンセリング対応（再掲） ○職員のオンライン研修の受講
	○多様な学生への対応	○学生の人権意識醸成	○職場研修実施	○職場研修実施 「信頼される公務員～モラル・倫理編～」 DVD視聴（12/26） 22名 「セクシャル・マイノリティ」 DVD視聴（12/27） 22名	B			